

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

タキロンシール

会社名:

タキロンシーアイ株式会社 東京工場

住所

茨城県かすみがうら市加茂5289-1

発行部門

事務グループ

電話番号

029-828-1611 (事務グループ)

FAX番号

029-828-2277 (事務グループ)

化学品の推奨用途及び使用上の制限

排水ます用接合剤

緊急連絡電話番号

同上

作成部門

技術グループ

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性

引火性がある

GHS分類および注意書きを含むラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体

区分2

健康に対する有害性

急性毒性(経口)

区分4

急性毒性(経皮)

区分外

急性毒性(吸入:ガス)

区分に該当しない

急性毒性(吸入:蒸気)

区分に該当しない

急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)

区分に該当しない

皮膚腐食性/刺激性

区分に該当しない

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性

区分2A

呼吸器感受性

分類できない

皮膚感受性

区分に該当しない

生殖細胞変異原性

分類できない

発がん性

分類できない

生殖毒性

分類できない

特定標的臓器(単回ばく露)

区分に該当しない

特定標的臓器(反復ばく露)

分類できない

誤えん有害性

区分に該当しない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)

区分3

水生環境有害性 長期(慢性)

区分3

オゾン層に対する有害性

分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H228 可燃性固体

H302 飲み込むと有害

H320 強い眼刺激

H402 水生生物に有害

H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

P210 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

P240 容器を接地すること/アースをとること。

P241 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。

P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレアの吸入を避けること。

P264 取扱い後はよく手を洗うこと。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

P370+P378 火災の場合:消化するために二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤を使用すること。

P301+P312、P330 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。

P305+P351+P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は

P337+P313 外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

P403+P233、P405 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉し施錠して保管すること。

【廃棄】

P501 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性口

知見なし

作成日2009年03月27日
改訂日2023年03月27日
タキロンシール

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名称

混合物
合成ゴム系シーリング剤

化学名又は一般名称	CAS番号	官報公示整理番号(化審法・安衛法)	含有量(%)	化学物質管理促進法 (PRTR法)
メチルシクロヘキサン	108-87-2	3-2230	10~20	対象外

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぎ取り去ること。
水又は適温の流水で洗浄した後、石鹸を用いてよく洗い落とす。

眼に入った場合

脱いだ衣類を再使用する前に洗濯し汚染除去すること。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求めること。
水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は医師を呼ぶこと。
口をすぐぐこと。ただし意識の無い場合には、口から何も与えてはいけない。
嘔吐が自然に起こった時は嘔吐物が気管に入らないよう身体を斜めにする。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

知見なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

知見なし

医師に対する特別な注意事項

知見なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤:

小火災:二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤
大火災:散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤
特有の危険有害性:

棒状注水
極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。
火災によって刺激性、有害性のガスを発生する恐れがある。
火災発生場所周辺への関係者以外の立入りを禁止する。

特有の消火方法:

消火作業は風上から行う。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置を取る。
大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な化学用保護衣を着用する

消火を行う者の特別な保護具
及び予防措置:

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置:

作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
風上に留まる。
低地から離れる。

環境に対する注意事項:

密閉された場所に入る前に換気する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

封じ込め及び浄化方法と機材:

危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。
関係箇所に通報し応援を求める。

二次災害の防止策:

密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ない恐れがある。

回収、中和:

7. 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策:

保護手袋、衣類及び眼、顔面用の保護具を着用すること。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。一禁煙。
防爆型の電気、換気、照明機器を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
蒸気の発生源を密閉する設備または局所排気装置を設ける。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。
静電気対策を行う。作業着、作業靴は導電性のものを用いる。
取扱い作業場の電気設備は、防爆構造とし、機器類は接地する。
蒸気の発生源を密閉する設備または局所排気装置を設ける。
接触、吸入または飲み込んではいならない。
取扱い後はよく手を洗うこと。
蒸気を吸入しないこと。
屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。

局所排気・全体換気:
安全取扱い注意事項:

保管

技術的対策:

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。
容器を密閉して換気の良いところで貯蔵すること。

保管条件

冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。
容器は直射日光や火気を避けること。
指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。
施設して貯蔵すること。

容器包装材料:

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

成分名	メチルシクロヘキサン
管理濃度	—
許容濃度:産衛学会(2005年版)	400ppm
ACGIH(2007年版)TLV-TWA	400ppm

設備対策:

防爆型の電気、換気、照明機器を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
蒸気の発生源を密閉する設備または局所排気装置を設ける。

保護具

呼吸器の保護具:

必要に応じ呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具:

保護手袋を着用すること。

眼の保護具:

眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具:

作業着等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态:

ペースト

色:

灰色

臭い:

溶剤臭

融点/凝固点:

データなし

沸点、初留点と沸騰範囲

データなし

可燃性:

データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:

データなし

引火点:

4°C

自然発火点:

データなし

分解温度:

データなし

pH:

該当せず

動粘性率:

データなし

溶解度:

有機溶剤に可溶。

n-オクタノール/水分分配係数:

データなし

蒸気圧:

データなし

密度又は相対密度:

約1.4

相対ガス密度:

データなし

粒子特性:

データなし

その他のデータ:

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性:

常温では安定

化学的安定性:

常温では安定

危険有害反応可能性:

知見無し

避けるべき条件:

高温

混触危険物質:

知見無し

危険有害な分解生成物(一酸化炭素、二酸化炭素、水以外):

知見無し

作成日2009年03月27日
改訂日2023年03月27日
タキロンシール

11. 有害性情報 急性毒性

	経口	経皮	吸入(ガス)	吸入(蒸気)	吸入(ミスト)
メチルシクロヘキサン	区分4 (1200mg/kg)	区分に該当しない (>86700mg/kg)	区分に該当しない	区分に該当しない (28.399mg/L)	分類できない

急性毒性(経口)	別表に示す含有成分のATEから混合物としてのATEを計算し、急性毒性(経口)を区分4に分類した。 飲み込むと有害
急性毒性(経皮)	全ての含有成分が「区分に該当しない」あるいはデータがないことから「区分に該当しない」に分類した。
急性毒性(吸入:ガス)	別表に示す含有成分の区分がいずれも液体であり、気体ではないことから「区分に該当しない」とした。
急性毒性(吸入:蒸気)	含有成分のATEから混合物としてのATEを計算し、急性毒性(吸入(蒸気))を「区分に該当しない」に分類した。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	全ての含有成分が「区分に該当しない」あるいはデータがないことから「区分に該当しない」に分類した。
皮膚腐食性/刺激性	区分3であるメチルシクロヘキサンを10%以上含有することから区分3となり、「区分外」に分類した。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2Bであるメチルシクロヘキサンを10%以上含有し、かつ区分2Aの成分を含有することから 区分2Aに分類した。 強い眼刺激
呼吸器感受性	データなし。
皮膚感受性	配合物が「区分に該当しない」あるいはデータがないことから「区分に該当しない」に分類した。
生殖細胞変異原性	データなし。
発がん性	データなし。
生殖毒性	データなし。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(麻酔作用)のメチルシクロヘキサンの含有量は20%未満のため、「区分に該当しない」に分類した。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし。
誤えん有	区分1であるメチルシクロヘキサンを10%以上含有するが、性状より「区分に該当しない」とした。

12. 環境影響情報 生態毒性

水生環境有害性(急性)	区分2であるメチルシクロヘキサンの含有量の10倍が、25%以上となることから区分3に分類した。 水生生物に有害
水生環境有害性(慢性)	区分2であるメチルシクロヘキサンの含有量の10倍が、25%以上となることから区分3に分類した。 長期継続的影響によって水生生物に有害
残留性・蓄積性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の有害性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意: 残余廃棄物

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている 場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

作成日2009年03月27日
改訂日2023年03月27日
タキロンシール

14. 輸送上の注意

陸上、海上、航空の国際規制及び国内規制

国際規制

国連番号	1325
国連輸送名	その他の可燃性物質
国連分類	クラス4+1 (可燃性物質。可燃性を有する。)
容器等級	II
緊急時応急指針番号	133
海洋汚染物質(該非)	メチルシクロヘキサン(Y類物質)
MARPOL73/78 附属書II 及びIBC	データなし
コードによるばら積み輸送される液体物質(該当・非該当)	

国内規制

陸上輸送	消防法に定められている輸送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている輸送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている輸送方法に従う。

輸送又は輸送手段に関する
特別の安全対策

危険物は当該危険物が転落し、または危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないよう積載すること。
危険物または危険物を収納した容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬すること。
危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に重量物を上積みしない。

15. 適用法令

国内法令名称、規制

労働安全衛生法:

施工令 別表第一 危険物(第一条、第六条、第九条)	引火性の物
有機溶剤中毒予防規則(有規則)	該当なし
特定化学物質予防規則(特化則)	
特定化学物質、管理第2類物質、特別管理物質	該当なし
名称等を通知すべき、およびリスクアセスメントが必要な危険物及び有害物(57条の2、3):	メチルシクロヘキサン
名称等を表示すべき危険物及び有害物(57条):	メチルシクロヘキサン

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(通称 PRTR法):

該当物質なし(2023年4月以降)

毒物及び劇物取締法:

該当物質なし

消防法:

危険物 第2類 引火性固体(指定数量 1000kg)

海洋汚濁防止法(有害液体物質):

メチルシクロヘキサン(Y類物質)

水質汚濁防止法(水質汚濁防止法第2条第4項):

指定物質「亜鉛およびその化合物」

港則法

その他の危険物(可燃性物質類、可燃性物質)

その他:

16. その他の情報

引用文献

- 1) 化学物質の危険・有害性便覧(中央災害防止協会)
- 2) 許容濃度等の勧告(2005年、日本産業衛生学会)
- 3) ACGIH(2005年)

この安全データシートに記載の内容は、最善の調査に基づき現時点で入手できた情報により作成しておりますが、物理化学的性質、危険有害性等に関してはいかなる保証をするものではありません。本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施のうえご利用下さい。尚、法改正や新しい知見、製品の改良等に伴い、予告なく安全データシートを改訂する場合があります。